特集

にぎわいを生み出す

阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺の市街地。市の中心部としてにぎわい、市民に支えられて発展してきたまちですが、昔に比べて活気がなくなってきたと感じている人も多いのではないでしょうか。今ある魅力を生かし、活気のあるまちを取り戻そうとしている人がいます。今回の特集では、まちの活性化に取り組む人たちの思いに迫りました。

問合せ　産業振興課　☎（740）1162

中心市街地の範囲

市では「市中心市街地活性化基本計画」を作成し、約80㌶を中心市街地と設定。「活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造」をテーマにまちづくりを進めています。

市の中心部をより魅力的な場所にするために、市中心市街地活性化協議会は市商工会や地域の商店会、行政などが協力して設置されました。まちの活性化に向けた取り組みについて、会長の大智靖志さんに話を聞きました

中心市街地は川西の顔
まちが元気になれる仕組みを

「阪急・能勢電鉄『川西能勢口』駅を中心とした市街地。通勤や買い物などで、利用する人も多いのではないでしょうか。まちを活気づけるために、多彩なイベントを開催しているんです」

市商工会会長の大智靖志さん。市中心市街地活性化協議会の会長も務めています。

同協議会は、訪れた人や商売をする人にとって、魅力的なまちにすることなどを目的に、19年に設置されました。

「市内で事業を営んでいるので、まちの変化をこの目で見てきました。駅前は整備され、きれいになりましたが、昔に比べてまちに元気がないように感じますね。駅周辺は、川西の玄関口であり、顔となる場所。活気づけることで、市民がまちを好きになるきっかけとなり、市外から訪れる人の増加も見込めます。市全体を盛り上げることにつながるのではないでしょうか。気軽に飲食店に立ち寄れる『きんたくんバル』や、まちをアートで彩る『川西まちなか美術館』などに参加してもらい、魅力を知ってもらえればうれしいですね」

中心市街地とは、駅の周辺だけでなく、「川西能勢口」駅の北に位置するキセラ川西を含むエリアのこと。訪れた人に、中心市街地を回遊してもらうことが大切だと大智さんは話します。

「キセラ川西せせらぎ公園で、秋の恒例イベントである『川西まつり』や『かわにし音灯り』を開催しました。駅からは少し離れているので、今はそこに来てもらうための取り組みが必要だと感じています。また、商業施設も増えているので、新しい店と既存の店のどちらにも相乗効果を生み出せる仕組みを考え、中心市街地をさらに盛り上げていきたいですね」

市中心市街地活性化協議会　会長
大智 靖志さん

積み重ねられてきた歴史と新たな取り組み

市民に愛されるまちへ

時代とともに発展してきた中心市街地。阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅の東側には、かつて商店街があり、まちの中心となっていました。そこにできた地域の新しい交流拠点。当時の活気を取り戻すために、今、動いている人たちがいます

①

②

③

④

⑤

①専門店が連なり、買い物客であふれていた中央商店街②「川西能勢口」駅東側の活性化が期待される藤ノ木さんかく広場③のせでんアートラインのオープニングイベントではアーティストがその場で作品を制作④新鮮な野菜が買える「かわにしまるまるマルシェ」（9ページ参照）⑤自分で持ち込んだ修理したいものを直すイベント「リペアカフェ」

中心市街地の発展

中心市街地は、阪急・能勢電鉄やJR、阪急バスといった公共交通機関の発達とともに、発展を遂げてきました。

昭和48年には「駅周辺都市整備計画基本構想」を策定し、市街地再開発事業などを実施。駅の連続立体交差事業をはじめとする基盤整備で、交通の利便性が向上しました。

その後も、市の玄関口として都市機能の集積が進み、アステ川西や阪急百貨店などの商業施設が営業を開始した他、業務ビルや高層マンションなどが立ち並んでいます。

変化した人の流れ

再開発が進む中で起こった変化。それは人の流れが、東から西に移ったということです。同駅の東に位置し、市民の台所として親しまれた「中央商店街」。商業施設が西側に集中してしまったため、人通りが減り、姿を消しました。

東側の地域に、今年オープンしたのが「藤ノ木さんかく広場」です。市民や商業者の活動の場、そしてキセラ川西と駅とをつなぐ場として、注目されています。

地域に浸透した広場へ

能勢口商業協同組合　理事長
田中 敏春さん

毎年８月に、駅の東側で開催している「かわにし能勢口まつり」。今年で 15 回目を迎えました。能勢口商業協同組合や川西中央商店会が主体となり、地域の皆さんに楽しんでもらえればという思いで実施しています。おかげさまで、皆さんも楽しみにしてくれていますよ。

今年は、「藤ノ木さんかく広場」で催しました。駅前に人が集まる広場があると、活動しやすくてありがたいですね。12 月にはこの広場で「防災フェア」を開きます。イベントを重ねることで、市民の広場として地域に浸透してほしいですね。

商店会がまちを活性化

川西中央商店会　会長
大西 哲昭さん

以前のにぎわいがなくなった「川西能勢口」駅の東側。この地域に再び元気を取り戻そうと、私たち商店会が旗振り役になって、まずは市民の皆さんに親しみを持ってもらうために、「かわにし能勢口まつり」などさまざまイベントの開催に取り組んでいます。

また、市の名物を作ろうと川西商店連盟に協力し「川西源氏うどん」を源氏まつりや川西まつりなどのイベントで販売しています。大変好評を得ていますよ。

今後は、市全体に広がって、川西が元気になればうれしいですね。

人を呼び込む交流拠点 皆さんの大切な場所に

（合）まちを楽舎
東 茂泰さん

「今」年オープンした『藤ノ木さんかく広場』。イベントをするだけでなく、近隣住民にとって生活の一部のような、大切な場所になればと思っています」

そう話すのは、（合）まちを楽舎の東茂泰さん。同社は、川西能勢口振興開発㈱から同広場の運営・管理を委託されています。

市では同広場を整備するに当たり、市民ワークショップで話し合いを重ねながら、使い方を考えてきました。

「ワークショップでは、たくさんアイデアが出ましたね。その一つが7月に開催された『リペアカフェ』です。また、のせでんアートラインのオープニングイベントなど、イベントの誘致にも取り組んでいます。今はどんなものが集客に効果的なのか試行しているんです」

誘致だけでなくサポートにも力を入れたいと東さんは話します。

「まちを楽舎は、市内でイベントを主催する市民団体『街はカーニバル！プロジェクト』が母体となっています。そのため、多種多様なノウハウを持った人たちとのネットワークがあるんです。この広場は手ごろな大きさなので、大きなイベントをするというよりは、活動のきっかけとして活用してもらえればと思いますね。もちろん誰でも利用可能です。何かしてみたいと思ったら、まずは相談してください」

運営する上で、中心市街地の回遊性を意識した取り組みをしています。

「9月にキセラ川西せせらぎ公園で開催された『HYOGO彩りフェスタinかわにし』のサテライト会場にも使われました。また、11月にはさんかく広場で『かわにし・まちなか祭』、せせらぎ公園で『かわにし音灯り』が同日開催されるなど、まち全体を巡ってもらえるような仕掛けを考えていきたいです」

毎週末何かが起こっていることを目標に運営される同広場。東さんはイベントの開催だけではなく、地域の交流の場として、日常使いしてほしいと話します。

「皆さんに生活スペースの一部として使ってほしいですね。先日、親子で自転車の練習をしている姿を見掛けました。地域の中に溶け込んだ、皆さんに愛される場所に成長させていきたいですね」

イベントで感じる まちの魅力

市中心市街地活性化協議会を中心に事業者や市民団体が協力し、イベントを開催。今回は「川西まちなか美術館」と「きんたくんバル」の主催者に話を聞きました

まちがまるごと美術館になるんです

まちなか美術館実行委員会　委員長
雪岡 健次さん

「川西まちなか美術館」は26年にスタートし、来年2月で5回目を迎えます。

市内にギャラリーはあるものの、美術館はありません。そこに着目して、芸術作品の展示や関連イベントなど、まちをまるごと美術館にしようと始めたのがきっかけです。前回は、延べ約1万6000人も来場してくださいました。

最初から大きなことをするのではなく、1回目は作品展示の「きんたくんギャラリー」を中心に開催しました。そこから回を重ねるごとに、ライブペイントやアート作品の販売など、内容を充実させてきたんです。

ライブペイントでは、普段は見ることのできない作品の制作過程を見てもらうことができます。特に今回は、コンテスト形式の「ライブペイントフェスタ」を開催しますよ。ぜひ会場で、目の前で完成していくアートにふれてもらえればと思います。

当初は商業施設などへの展示が中心でしたが、口コミで飲食店や店舗の協力も増えているんです。

アートを楽しみながら食事やお茶をすることで、お店を知るきっかけにしてもらえればうれしいですね。

食の新しい楽しみ方でまちを盛り上げます

きんたくんバル実行委員会　委員長
森 広貴さん

市民の皆さんにお店を知ってもらい、安価で料理を提供することで、日頃お世話になっている恩返しがしたい。そんな思いで23年から年に2回「きんたくんバル」を開催してきました。

今年春の開催で13回目を迎えましたが、実際には来場者とお店のどちらからも「またバルか…」という声も上がるほど、イベントがマンネリ化していたんです。

そこで、今回から心機一転。盛り上げ方を変えるため、秋のバルをリニューアルし、「かわにし・まちなか祭」として開催することにしました。

特徴は、店舗だけでなく、藤ノ木さんかく広場に屋台を出店したこと。また、バルチケットをなくして、店舗ごとにサービスを選べるようにしたんです。来場者とお店、双方のハードルを低くしたことで、より気軽に参加できるようにしました。もちろん、来場者にお店の魅力を知ってもらうことが目的ですが、このイベントをきっかけに、お店側にも元気を出してもらえればうれしいですね。

これからも、継続的にこのような食に関するイベントを企画していきたいと考えています。

駅周辺やさんかく広場の

今後のイベントに注目

これから開催予定のイベントを紹介。まちのことを知る第一歩として、まずは、足を運んでみてはいかがですか。

川西まちなか美術館

これから羽ばたくアーティストや学生などの発表の場を設け、中心市街地を盛り上げようと始まった「川西まちなか美術館」。今回のテーマは「紡ぐ TSUMUGU」で、店舗や事業所などに公募した作品が展示され、まち全体が美術館になります。

また、展示以外にもライブペイントフェスタやアートマーケット、アートツアーなど多彩なイベントを企画しています。

主　催　まちなか美術館実行委員会
と　き　30年2月18日㈰～3月4日㈰
ところ　阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺
問合せ　☎(744)7112
https://www.machibi.net/

防災フェア＆歳末感謝祭

各家庭の防災力を向上させるために、催しを通して、幼い子どもや高齢者がいる場合などの災害時の心得や家族の役割分担を考えます。また、和太鼓演奏など歳末感謝祭のイベントも合わせて開催します。

主　催　かわにし能勢口まつり実行委員会（能勢口商業協同組合・川西中央商店会）
と　き　12月9日㈯午前11時―午後3時
ところ　藤ノ木さんかく広場
内　容　水消火器実射体験やAED模擬講習、消防車展示、和太鼓演奏、豚汁・豚まん・防犯グッズの無料配布など
問合せ　☎(755)1516

かわにしまるまるマルシェ

川西産の農産物や特産品の加工品などを販売。詳しくは9ページに掲載。

と　き　12月6日㈬午前9時―11時
ところ　藤ノ木さんかく広場
問合せ　産業振興課　☎(740)1164

今なら無料で利用できます

藤ノ木さんかく広場 フリマや教室、遊びなどの利用者募集

阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅の東口から徒歩約1分のところにできた、約500平方㍍のアスファルト敷きの新しい広場。フリーマーケットやワークショップ、教室、遊び、フェア、展示など、さまざまな用途で使うことができます。

（合）まちを楽舎が管理・運営し、今なら利用無料。利用申し込みは、市役所2階の産業振興課に備えつけの申込書（市ホームページからダウンロード可）に必要事項を書き、（合）まちを楽舎（アートデザイン内）☎(740)2241・ファクス(703)0716へ。

何度も訪れたくなるまちをめざす

産業振興課　課長
阿部 成史

キセラ川西という新しいまちが誕生し、中心市街地は生まれ変わろうとしています。このエリアでは、今年オープンしたばかりの「キセラ川西せせらぎ公園」をはじめ、文化会館などの機能を併設した複合施設「キセラ川西プラザ」や商業施設の整備が進められています。

また、これまで人通りが少なかった「川西能勢口」駅東側では「藤ノ木さんかく広場」が誕生。使い方のワークショップを何度も開催し、日常的に使ってもらうことで地域の皆さんに愛着を持ってもらえる広場をめざしています。今後は、この「藤ノ木さんかく広場」や「キセラ川西せせらぎ公園」などを活用し、人が何度も訪れてみたくなるような取り組みができればと考えています。

新たに魅力的なスポットが次々と生まれている中心市街地。これらの点在するスポット同士を線で結び、それらが面となって、中心市街地を訪れた人たちが、「川西能勢口」駅周辺とキセラ川西のエリアを楽しく回遊できるようなまちに成長してくれることを期待しています。

これからも、市中心市街地活性化基本計画に基づき、官民一緒になってまちの活性化に取り組み、中心市街地全体から元気が感じられる、そんなまちにしていきたいですね。